

---

# テレビ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ  
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。  
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また  
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ  
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範  
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し  
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

テレビ

### 【Zマーク】

Z0266M

### 【作者名】

### 【あらすじ】

勘違いから始まった恋。

それでも、幸せな恋でした。

(前書き)

書いてて、だんだん訳わかなくなくなりましたw

えええ・・・。とか、思つかもww

ねえ・・・。よくぞ、『ああ・・・。芸能人と友達になりたいよオ  
オ。』

とか、言つてる子がいるけどさ・・・。

私はそりは思わないんだ・・・。

思えないんだ・・・。

だつて・・・。

・・・・・・・・・・・・・・

初めて会つたのは、三年生の時。

同じ習い事で出会つたんだ。

「はじめまして。今田から、ここに入りました。よろしくお願ひします。」

綺麗な挨拶・・・。

(かっこいい・・・。)

私は、一回ぼれをした・・・。

だけど、相手は、三つ上の六年生。

そんな恋は実るはずがなかつた……。

当つ前だ……。

それでも、片思には続いた。

だけどね……。

本当に、六年生になつたとやべりからいつ始めたんだ……。

「……それってあ。本当に好きなの?/?」

「は?/?」

それは、突然言われた一言だった。

同じ廻い事をしてみて、同学生年で、同じ学校のすぐ仲の良い友達だ。

「だへへかへへらへへ。それ、本当に『好き』じゃなくつて『憧れ』なんじゃないのかなあ。つて。」

・・・『憧れ』・・・??

「うへへん。でも、小3のじゆかひゅと片思いなんだよ。」

「違うよ。小3のじゆかひゅ、ずっと『憧れ』なんだよ。」

いやいや。違ひば。だって。あの時、『一皿ぼれ』をしたんだもん。

「だって、あの初めて会ったときから、『一皿ぼれ』してたんだよ  
??」

「違ひよ。あの時は子どもだったからそれを『恋』って勘違いした  
だけ。初めは、『かつこにい・・・。』だけだつたんじゃないの?  
?」

・・・違ひ・・・。違ひ・・・。

「ははwwwそんなわけないじゃん??」

「そんなんわかるよ、それってさ。そのかつこにいってさ。芸能人  
をかつこいい。つて思うのと同じことだとおもうよ。」

・・・ちがう・・・ちがう・・・ヤメテ・・・。ヤメテ・・・。

「あの人は、芸能人じゃないじゃん。」

「じゃあさ。もしも・・・。あの人があなただつたら、三年越しの  
片思いになつてた??」

ヤメテ・・・。壊さないで・・・。ワタシノ・・・セカイヲ・・・。  
コワサナイト・・・。

「なつてたよおお。」

「ねえ・・・。ハル? そろそろ分かり始めたんじゃないの??」

・・・ヤメテ・・・。

「うひいうか・・・。もひ・・・。分かつてゐるんだよね???」

シラナイ・・・シラナイ・・・。

「違つたな・・・。私が言つ前から、ハルは本当は分かつていたんでしょう? 小6になつて、大人に近づいて行つて・・・。そんなことを知りたくないつて・・・。分かることに蓋をして・・・。それで、保つていたんでしょう? ? 分かるよ・・・。三年間の片思いを無くしてしまつたくなかったんだよね? 三年間が・・・無駄になるような気がしたんでしょ? ??」

ヤメテ・・・無理やりこじ開けないで・・・。見たくない・・・。ヒラキタクナイ・・・。まだ・・・。駄目なんだ・・・。

「うひ・・・。うひ・・・。うわあああ。」

そう言つて、私は駆けだしてしまつた。

・・・

朝起きるとテレビがついていた。

あれから、何をどうしたか覚えていない。

ただ・・・。あの。気持ちは・・・妙にリアルだった・・・。

「・・・。」

テレビをじっと見つめる。

（もしも・・・）の中に、あの人がいたら・・・。私は好きになんてならなかつた・・・。分かつてるよ。忍が言つたことは。すべて事実だ。分かつてるよ？？でも。ごめん。大人になりたくなかつた。。。大好きだから・・・。分かりたくなかつた・・・。この気持ち・・・。）

でも・・・。目の前を見ていかなくつちや・・・。

分かつてる。今。好きな人がいるんだ。

分かつてる。でも、片思いの記録に挑戦したいだけ・・・。わかつてるよ・・・。

だつたら・・・やることは・・・。決まつてる・・・。

ねえ・・・。音羽くん。

私ね。あなたに区切りをつけようと思つ。

『ふるるる』

「はあ～～い。篠崎です。」

出た・・・。

「あつ～～お～～尾羽です！～」

「えつ？？あああ。春ちゃん？？ふふつ。どうしたの？？」

あ・・・やつぱり・・・。泣きたくなる・・・。

「あのね。音羽君。私ね。ずっと音羽君が好きだったの・・・。」

『・・・。』

無言・・・。怖くなる・・・。

「でもね・・・。」めん。つじつま恋わせの恋だったの・・・、  
もつ・・・。気づき始めたの・・・。」めん・・・。」めん・・・。

「

何を・・謝つてこるんだろう?・?

「・・・そつか・・・。そつか。うん。そつか。でも。よかつたね。  
「めんね。俺も気づいてあげられなくって。俺、春ちゃんのことは  
好きだよ?でも、違うから。つじつま恋わせでも・・・大丈夫だ  
よ。安心して・・・。次の本当の恋を発見して行こう?・?」

・・・やつぱり・・・。好きだ・・・。つじつま恋わせの恋だつた・  
・・・。

でも。やつぱり。いつの間にか好きになつていきました・・・。

「あ・・・ありがと・・・。う。ありがと・・・。」

「う。じゃあ。またね。」

「う・・・ん。うん・・・。」

優しくあなたに恋をしてはじつま合図を始めた恋だけど・。  
。

ありがとうございました。私は幸せでした。

無駄な恋愛じゃなかつたよ。

ありがとうございました。

「あれ? ハル? へビうかした? ?

「ん? うん。ちよつとね。」

「すつせりしたか。」

「うん わあああ。本当の恋でもしますかああ わあ」

「うんうん わあ」

・・・・・・・・・・

よくぞ。『芸能人とともにだちになりたあい。』

とかさ。『いつてる人がいるけど。

わけわんなくなつちやうよ? ?

でもね。幸せな恋愛にはなるかもしないよ わ

ただ。やつぱし。テレビのなかの人のはうが、わかりやすくて私は好きかな。

音羽君が、テレビの中には、私は勘違いをしなくてすんだかもしけないけど・・・。

でも・・・。こんな幸せな思いをしなかつたかもしれないね。

音羽君。私はあなたが今も大好きです。

でも。・・・今は・・・。

尊敬していますw

(後書き)

最後まで読んでいただきありがとうございました。

実は、これ。軽くノンフィクションだったりします。w w

まあ、全部じゃないんですけどね。w w

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0266m/>

---

テレビ

2011年1月3日22時00分発行